

令和6年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>特別活動研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>児童生徒が自発的に取り組む学級会 ～決定と実践を任せられる議題をとおして～</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>集団の課題を見だし、解決する資質・能力</p>
<p>研究内容</p>	<p>令和5年第4期教育振興基本計画では、社会の持続的な発展を生み出す人材を養成するためには、子供たちが社会を形成する一員であり、合意形成を経て自らルールや仕組みを作ることができることを認識できるようになることが求められている。</p> <p>学級や学校は、児童生徒にとって最も身近な社会であり、自分は学級や学校の一員であることを自覚すること、学級や学校の課題に対して話し合い、合意形成をすることは特別活動においても大切にされていることから、特別活動の重要性がさらに示唆された捉えることができる。</p> <p>本市においては、キャリア在り方生き方教育（川崎版キャリア教育）や主権者教育により、特別活動の充実に努めてきた。その中でも学級会においては、実践事例集や教育課程研究会等で具体的な事例を示し、学級会の充実に努めてきた。</p> <p>本研究会議において、現状の学級会の課題について話し合ったところ、「児童生徒が話し合いたいと思っている議題になっていない。」「合意形成の場面では、私語をやめる、黙想をするなど、集団ではなく個人が実践することを決めている。」ことなどが挙げられた。そこで、本研究会議では、学級会の議題に着目して、児童生徒が発見した課題を議題とする学級会を目指すことにした。そのような議題で話し合いをすれば、児童生徒が自発的に学級会に取り組むのではないかと考えた。自発的に取り組む学級会とは、「学級をよりよくするための課題を見だし、議題として話し合い、実践するための活動を提案すること」とした。そのためには、議題は重要である。児童生徒が話し合いたいと思う議題の条件として、議題の提案理由に必要感が入っていること、解決する必要性を共通理解して話し合っていること、実践に向けて前向きに話し合っていることとし、この条件を満たす議題を、「決定と実践を任せられる議題」とした。以上のことより、主題を「児童生徒が自発的に取り組む学級会」、副題を「決定と実践を任せられる議題をとおして」と設定した。</p> <p>研究の内容としては、議題の設定では、児童生徒が議題を提案できる場としての議題箱の設置、議題例の提示、課題発見したことへの教師の価値づけを継続して行う。学級会では、児童生徒の議題への気持ちがあるか、実践に向け、建設的に話し合っているかを観察により見取りを行う。事後では、川崎市学習状況調査における「私は、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいる。(小4から中3)」と「私は、学年や学校のためになる活動を提案して、進んで取り組んでいる。(中1から中3)」の数値により効果を検証することにする。</p>